

三宅 進

チェロ・リサイタル

ピアノ 練木繁夫

ベートーヴェン：チェロ・ソナタ 第2番 ト短調 Op.5-2
Beethoven: Cello and Piano Sonata No.2 G minor Op.5-2

R.シュトラウス：チェロ・ソナタ ヘ長調 Op.6
R.Strauss: Cello and Piano Sonata F major Op.6

バッハ：無伴奏チェロ組曲 第1番 ト長調 BWV1007
Bach: Cello Suite No. 1 in G Major, BWV 1007

ブラームス：チェロ・ソナタ 第1番 ホ短調 Op.38
Brahms: Cello and Piano Sonata No.1 E minor Op.38

[仙台]
2019年11月29日(金)

18:30開場／19:00開演
宮城野区文化センター
PaToNaホール

(JR仙石線「陸前原ノ町」駅下車 徒歩1分)

【全指定席】
一般¥3,500(当日¥4,000) 学生¥2,000

【チケット取り扱い】 チケットぴあ(Pコード:164-001)
藤崎、仙台三越、ヤマハミュージック仙台、カワイ仙台
銀座山野楽器仙台店2F弦楽器フロア
宮城野区文化センター

【後援】
河北新報社、TBC東北放送、仙台放送
ミヤギテレビ、KHB東日本放送、エフエム仙台
公益財団法人仙台市市民文化事業団
公益財団法人仙台フィルハーモニー管弦楽団

【お問い合わせ】
HAL PLANNING(平日10:00~18:00)
022-262-1682
halplanning.email@gmail.com

[東京]
2019年12月11日(水)

18:30開場／19:00開演
サントリーホール
ブルーローズ

【全指定席】
一般¥4,000 学生¥2,500(当日会場にて学生証をご提示ください)

【チケット取り扱い】 チケットぴあ(Pコード:164-180)

【お問い合わせ】

(株)クレオム 03-6804-6526 tickets@creomu.com

【後援】 一般財団法人 日本チェロ協会
公益財団法人 仙台フィルハーモニー管弦楽団

MIYAKE SUSUMU
CELLO RECITAL
NERIKI SHIGEO, PIANO

リサイタルに寄せて

おもえば遠くへ来たものです。プロの演奏家の端くれとして活動して30年が過ぎました。多くの経験は積みましたが、日々、チェロの演奏法、音楽の表現、芸術とはなんだろうといったことに対峙して迷い、あがいています。いまだ手をつけられていないことの多さにもたじろぎます。図書館の大きな書棚の前で、いったい自分は一生にあと何冊本を読めるのだろうか?と焦る気持ちと似ています。このリサイタルはそういったものを抱えた自分の今を見つめ直す機会です。私の音楽家としての人生を決定づけたのは、インディアナ留学時代の師匠シュタルケル先生との出会いでした。彼の音楽の最大の理解者である名ピアニスト、練木繁夫さんと共演する機会を持てることに心から感謝します。

三宅 進

チェロ 三宅 進 Miyake Susumu, Cello



photo:水谷綾子

桐朋学園大学にて、木越洋、安田謙一郎の両氏に師事。同大学研究科修了後、1988年渡米、インディアナ州立大学音楽学部アーティスト・ディプロマコースに入学。20世紀を代表する名チェリスト、ヤーノシュ・シュタルケル氏のもと、研鑽を積む。1990年帰国後、新ヴィヴァルディ合奏団メンバー、イソ弦楽四重奏団、群馬交響楽団首席チェロ奏者などを歴任。イソ弦楽四重奏団モーツァルト弦楽四重奏曲全曲演奏、ヴァインジャーマン指揮ドイツ・バッハ・ブリストン、東京アンサンブルなど数多くのプロジェクトに参加。東響、東フィル、新日フィル、大阪フィル、札幌など全国の主要なオーケストラに首席奏者として客演。

これまでに台湾国家交響楽団、仙台フィル、群響、北欧アンサンブル他トリヒャルト・シュトラウス「ドン・キホーテ」、ドヴォルザーク、ハイドン、エルガーなどの協奏曲を共演。海外での演奏も多く、イタリア、オーストリア、フランス、ギリシャ、トルコ、マケドニア、コンソボ、中国、韓国、など世界各地でのコンサートはいずれも高い評価を得ている。

2010年より武蔵野音楽大学で後進の指導にあたる。2012年公益財団法人仙台フィルハーモニー管弦楽団の首席チェロ奏者に就任。翌2013年より同団ソロ首席奏者。2013年より仙台市宮城野区文化センター主催の室内楽シリーズMusic From PaToNaの音楽監督を務める。同シリーズは第4回ウィーンフィル&サントリー音楽復興祈念賞を受賞。CDは「ラフマニノフチェロソナタ」「ZAL」「Miyake and Four Cellos」がビクターエンタテインメント、若林工房から発売されている。使用楽器はCarlo Tononi 1735ca。

ピアノ 練木繁夫 Neriki Shigeo, Piano



1976年ツーソンのバイエニアル・ピアノ・コンクールと79年ピッツバーグのスリー・リヴァーズ・ピアノ・コンクールで1位に輝いた。これまでにボストン響、シカゴ響、ピッツバーグ響、ワシントン・ナショナル響等と共演。アメリカ国外でもメキシコ国立響、フランス放送管、そしてN響を含む日本の主要なオーケストラと共演。また、76年より、チェロの巨匠ヤーノシュ・シュタルケルとともに世界各地を公演した。09年紀尾井ホールでの「デビュー30周年記念リサイタル」は、各方面から高い評価を得た。室内楽奏者としてもヨーロッパ、アジア、北米のコンサートやフェスティバルに数多く出演。

93年第24回サントリー音楽賞を受賞。90年シュタルケルと収録したD. ポッパーの作品のCDが、グラミー賞のソリスト部門にノミネートされた。97年にはオール・シューマン・プログラムの「バピヨン」が、文化庁芸術祭賞作品賞を受賞。1981年～2015年までインディアナ大学で教鞭をとった。

飯守美絵子、大島正泰、G・シェベックに師事。現在、桐朋学園大学教授、相愛学園大学客員教授、エリザベト音楽大学非常勤講師、サントリー室内楽アカデミー・ファカルティ。

リサイタルのみならず、室内楽、オーケストラ共演と幅広く活躍中。